

## 加古川流域委員会 第二回設立準備会議 議事録（概要）

■日 時：平成 20 年 3 月 26 日（水）10:00～12:00

■場 所：加古川プラザホテル 2 階 相生

■出席者：委員 11 名（中瀬議長、池嶋委員、牛木委員、田下委員、田辺委員、畠山委員、服部委員、播本委員、玉岡委員、道奥委員、吉田委員）

国土交通省 13 名、自治体関係者 3 名、一般傍聴者 1 名（計 17 名）

### 1. 今回の議題について

議題 ・ 流域委員の規約、スケジュール等について

### 2. 設立準備会議構成メンバーの紹介

河川管理者より、流域委員会設立準備会議構成委員について、資料 1 に基づき、紹介を行いました。

### 3. 第一回設立準備会議の概要について

河川管理者より、前回実施された第一回設立準備会議の概要について、説明を行いました。

### 4. 審議

下記 1 点について、審議を行いました。

#### 1) 流域委員会の規約案について

河川管理者より、資料 3 に基づき第一回設立準備会議からの修正点の説明を行いました。それに対し、委員から下記の質問がありました。

○規約の施行期間はいつからになりますか。

→河川管理者からの回答

第一回流域委員会の日付となります。

審議の結果、満場一致で流域委員会の規約は承認されました。

### 5. 委員会のスケジュールについて

河川管理者より、資料 4 に基づき委員会のスケジュール(案)について説明を行いました。それに対し、委員から下記の質問がありました。

○1 年間で完結する予定になっていますが、整備計画を策定することは可能でしょうか。

→河川管理者からの回答

平成 9 年より整備計画に向けた議論を行っており、策定のための下準備は出来ておりまして、「おおよそ 1 年間」を目標に設定しました。これは努力目標でもあり、場合により遅れることもあります。

○加古川の歴史や特徴などについては、誰かに説明して頂けるのでしょうか。

→河川管理者からの回答

加古川の歴史や特徴などの資料が姫路河川国道事務所にあるため、基本的にはそれらを整理したいと考えています。また委員の中にはそれらに詳しい方もいらっしゃるため、その都度アドバイスを頂きながら紹介したいと考えています。

## 6. その他

### 1) ナガボテンツキの移植プロジェクトについて

河川管理者より、資料 5-1 に基づき、ナガボテンツキの移植プロジェクトについて説明を行いました。それに対し、委員から下記の質問がありました。

○ナガボテンツキはため池に生育するのでしょうか。

→委員からのご意見

「海辺や河口・ため池に生育するテンツキ」の仲間、ナガボテンツキは湿地に生育し、ため池には生息しません。

○ナガボテンツキが絶滅した理由について検証し、それを伝える事が大事である。移植する意義がなんなのかが重要。

→委員からのご意見（絶滅の一因についてのご意見）

河道改修や河川環境の変化によりナガボテンツキが生える環境が小さくなり、大きな洪水が発生した時の攪乱により、絶滅したと考えられます。

### 2) 加古川の「一斉点検」について

河川管理者より、資料 5-2 に基づき、地域住民の方と連携した加古川の一斉点検について説明を行いました。それに対し、委員から下記の意見・要望・質問がありました。

○このような活動の実施に当たり地域の小学生に参加して頂くためには、教育委員会に働きかけることが重要です。

○活動の紹介のために、地域の小学校にパンフレットを配るなどしてはいかがでしょうか。

○一斉点検を実施する 7 月 7 日は平日であり小学生が参加できないので、別の日が良いのではないのでしょうか。

→河川管理者からの回答

一斉点検の日は確定してはおりません。頂いたご意見を熟慮して決めていきたいと考えています。

○平日に実施するのであれば、姫路河川国道事務所のマイクロバスで小学生の移送を行うことはできないのでしょうか。

○下流の小学校から順に環境学習を行い、それを上流側の小学校にバトンタッチして同様の環境学習を行う。これを繰り返すことにより、加古川全川の様々な環境で小学生が環境学習を行えます。このような仕組みを考案してはいかがでしょうか。

○イベントの名称は、地域住民が川に関心を持ち、より川に近づきやすくなるように、川の魅力に引き込まれるようなネーミングにしてもらいたい。

○ナガボテンツキのプロジェクトと一斉点検を、地域住民の主動で行うことが望ましいと思います。そのための資金については、河川整備基金等の助成金を利用して調達することを考えてはいかがでしょうか。

○県民局の環境担当にも連携をお願いしてはいかがでしょうか。

### 3) 河道内の樹林化対策について

河川管理者より、資料 5-3 に基づき、神戸大学、明石高専と連携した河道内の樹林化対策について説明を行いました。それに対し、委員から下記の意見・要望・質問がありました。

○現在繁茂しているヤナギの管理についてはどのように考えていますか。

→河川管理者からの回答

伐採には維持管理費がかかります。よってたき木や炭焼きとしての利用など地域活動と融合すれば理想的であると考えています。

○伐採が悪いイメージを持っているので、若草山の山焼きのようにイベント化してはどうでしょうか。「播磨国風土記」の記載にもあるように、加古川では昔から樹木が生えていたと思われるので、提示資料にあるように全て伐採しなくてもよいのではないのでしょうか。

→委員からのご意見

今回の試みは研究目的でもあるため、現象を解明するためにシンプルな条件を設定する必要があり、全て伐採しています。

○ヤナギの伐採が河口干潟に及ぼす影響について教えて頂きたい。

以上